# けっしょうも

発行: テラ・ルネッサンス 発行日: 2008年9月1日



Topics

### 各地域での新規支援事業が進む



#### ■ 結晶母目次

#### 理事長挨拶

ワンワールド・フェスティバル 報告

ボランティア活動報告 ワンワールド・フェスティバル 回収事業

ウガンダ・コンゴ事業報告

カンボジア・ラオス事業報告

事務局便り

今後のイベント予定など



多くの皆様のご支援を頂戴して、 各地域で新規に、支援事業を開始し ています。

ウガンダでは外務省「日本 NGO 支援無償資金」により4棟目の職業訓練施設を開設したことにより、元少

年兵を対象にした、木工作業訓練を実施しています。

カンボジアでは、江角泰を駐在スタッフとして赴任させ、地雷除去後の地域開発事業を行うなど、カンボジア事業の拡充が進んでいます。また、隣国ラオスでもクラスター爆弾を含む不発弾処理支援にも、小規模ですが取り組むことになりました。

これらの支援事業全でが、本会の設立目的である「すべての生命が安心して生活できる社会」を実現するために実施しています。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。 理事長:鬼丸昌也



# One World Festival

ワンワールド・フェスティバル

感じる・ふれあう・助け合う 世界につながる国際協力のお祭り「ワンワールド・フェスティバル」が今年も2月2、3日に行われました。

テラ・ルネッサンスは今回、展示、フードコーナー、NGO 相談に参加し、国際協力に関心を抱く多くの方々と触れ合うことができました。

#### 室内展示スース

室内展示ブースでは、ウガンダ・コンゴ・カンボジアのパネル展示や、書籍やウガンダ産コーヒー豆の販売を行いました。また、ブース内にモニターを設置し、ウガンダの職業訓練校の様子を上映したところ、多くの方が足を止めて見入って下さりました。また、ボランティア研修を受けたボランティアである要けたボランティア研修を受けたボランティアの活動を来場者に伝えようとしている姿はとても頼もしかったです。

このようなブース展示を通じて、テラ・

ルネッサンスと共に歩んでくださる方の輪 が広がることを、うれしく思うイベントとな りました。



#### 民族認識店



2 日間を通してカンボジアの民族料理である<u>クイティウ(お米のヌードル)とノムパンチェン(揚げパン)、ウガンダコーヒ</u>を販売しました。

2 日目の午前中は雨も降り、寒かったせいか温かいクイティウがよく売れました。 売上はクイティウが 300 円×221 食、ノムパンチェンが 150 円×203 食、コーヒーが 100 円×191 杯で総売上額は 115,850 円でした。

利益を出すことはもちろんですが、参加 者に民族料理からカンボジア、テラ・ルネ ッサンスを知ってもらうという目的があっ た民族料理店。今後は定期的に民族料理を 作る機会を設けられたらいいなと考えてい ます。

#### NGO相談員

テラ・ルネッサンスは 2006 年度に続き、2007 年度も外務省より委託を受け、NGO 相談員として活動していました。ワンワールド・フェスティブルの NGO 相談員ブースにも 2 日にわたり、多くの人が質問に来て下さいました。相談内容は「ボランティアにはどうしたら参加できますか?」「NGO 職員になるにはどうしたらいいの?」といった質問から外国事情に関する様々でしたが、多くの皆さんの「何か自分にできることがしたい!!」という熱い思いを感じることができました。

# 市分介酒辦告

**ワールドフェスティバルではたくさんのボランティアさんが** 集まり、テラ・ルネッサンスの活動を手伝ってくださいました。 そんなボランティアさんたちの活躍を報告します。

2日間で7名のボランティアメンバーが集まって下さいました。当日準備のためにスタッフ、インターンとともに朝9時に集合し、簡単な挨拶をしたあと活動紹介、民族料理のブース、それぞれの持ち場へ移動しました。

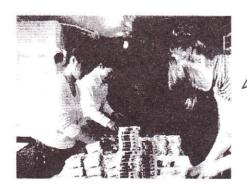
料理ブースでは小さなテントの中でカンボジア料理"クイティウ"と"ノムパンチェン"の準備にてんてこまい。オープンの時間に間に合うよう、急ピッチで作業を進めました。野菜を洗ったり、水を汲んだり、コンロをセッティングしたり。スペースの狭さに苦労しながらも、テキパキした仕事ぶりのおかげでブースの開店時間には予定通りに料理ができあがりました。ピーク時には予想以上の売れ行きに材料が足りなくなったり、おなべがひっくり返ったりで一時販売休止にも。休憩する暇も無いほどの忙しさでしたが、ボランティアのみなさんは「いらっしゃいませ!」と元気よく声を出しながら笑顔でがんばってくれました。

ワンフェスで協力してくれたボランティアメンバーはテラ・ルネボランティア初参加の方から顔 なじみのメンバーまで様々でした。テラ・ルネッサンスとのお付き合いが 1 年以上のベテランボランティアさんは活動紹介ブースでも大活躍。これまで何度もイベントをお手伝いしてくれているので来場者への対応は慣れたもので頭が下がります。

イベント開催中はかなり冷え込み、2日目は冷たい雨も降りました。決して快適な環境での活動ではありませんでしたが、そのなかで皆さんは本当によく協力してくださりました。

# インクカートリッジ・書き損じハガキ回収事業

今回のワンフェスイのようなベント関係以外でも、テラ・ルネッサンスの取り組んでいる"書損じハガキ"や"使用済みインクカートリッジ"の回収でもいつもボランティアさんがお手伝いしていただいています。



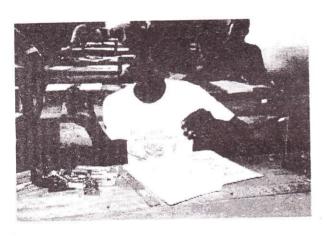
2月28日に書損じハガキの集計を、3月5日には使用済みインクカートリッジの集計をしました。去年末から事務局に続々と寄せられたハガキ・インクカートリッジを換金するため、ハガキは郵送料金ごとに、カートリッジは種類・カラーごとに分類します。根気のいる作業ですが、みなさん丁寧にお仕事を進めてくださいました。両日ともおよそ3時間を費やし、およそ7000枚のハガキ(約24万円相当)、2000個のインクカートリッジ(約6万円相当)の集計を終えました。

# 水工大工の技術を

ルネッサンス・プログラム は 2008 年 1 月より、第 4 期生を受 け入れました。第 4 期生は木工大工 の技術の習得を目指す元子ども兵 ら 15 名です(男性:14名、女性1名)。



### ルネッサンス・プログラム 第4期生受け入れ



新しくプログラムに参加することになった第 4 期 生は、ほとんどが 10 代後半の青年たちです。従軍期 間は長い子もいれば短い子もいますが、男の子という こともあり、従軍時代には戦闘での殺害や村への襲撃 など、戦闘の第一線で戦うことを強制された子どもば かりです。そのため、被弾による障害や心に深い傷や トラウマを抱えた子もいます。

椅子や机、道具箱の作成などから徐々に技術の向上を目指します。ルネッサンス・プログラムを通じて、 木工大工を学び、将来はプロの木工大工職人・土木職 人等になり、その仕事でコミュニュティーに貢献することが今の彼らの希望です。

### 引き渡し式 ~外務省からテラ・ルネッサンスへ~

昨年、外務省の「NGO無償支援」を受け、 完成した施設の引き渡し式が2月6日に行われました。

引き渡し式には首都カンパラ在ウガンダ 大使をはじめ、グル市長などにも参加してい ただき、盛大に執り行われました。元・子ど も兵やその子どもらもダンスなども催し物 を披露しました。

外務省 NGO 無償支援により、服飾デザイン、 木工大工用の教室、スタッフ用オフィス、施 設外壁が整えられ、それぞれに必要なミシン や工具などの購入費に充てられました。



# ウガンダ視察ツアー

2 月下旬、テラ・ルネッサンスの活動を視察してくださる支援者の皆様と、ウガンダ北部グルの当会、元子ども兵社会復帰支援施設を訪れました。その中でも印象に残る行程(場所)

#### ▼本会・元子ども兵社会復帰センター訪問・交流



グル到着日、元子ども兵の子どもを中心に、たくさんの子どもたちが歌とダンスで歓迎してくれました。子どもたちは毎週土曜日、ウガンダ北部の民族アチョリ族の伝統的な歌やダンスを練習しています。今回はこの日のために新しい歓迎ソングやダンスを練習し、披露してくれました。子どもたちの迫力あるパフォーマンスに圧倒されました。感動の涙を浮かべる姿も。

その後、交流会を実施、日本の食卓の定番、カレーをふるまったり、ドッジボールをしたりと、皆で汗を流しました。

#### ▼グスコ訪問

グスコ (Gulu Support the Children Organization) は反政府勢力から帰還した子どもたちを保護し、家族やコミュニティの元へ帰る準備を支援する団体です。当会で訓練を受ける元子ども兵もグスコで支援を受けた経験を持つものばかりです。

私たちが訪れた時にも、従軍した経験を持つ元子ども兵らが、簡単な職業訓練を受けたり、木の 木陰でゲームをしたりして過ごしていました。

#### ▼国内避難民(IDP)キャンプ訪問

私たちはウガンダ北部に数多く点在するルコディ IDP キャンプという国内避難民の方々が住んでいるキャンプを訪れました。この IDP キャンプには、約3,000 世帯が住んでいますが、水くみ場はわずか2ヵ所。それももう水が出ないという状況でした。唯一の希望は最近、小学校が建てられたことくらいのように見えました。平和なグル市内との格差に、一同衝撃を受けました。

#### ▼元子ども兵の家庭を訪問

視察メンバーを2つのグループに分け、元子ども兵の家庭を訪問しました。社会復帰センターでは聞くことのできない、自身の抱えている現状を率直に話してくれ、メンバー全員が「子ども兵と 紛争」の問題に向き合うことになりました。

#### アチャヨ・マーガレットさん (26)



マーガレットには、3人の子どもがいます。しかし、彼女は10年間の従軍中に、HIV/エイズに感染し、エイズを発症してしまったのです。私たちが訪れた時も、彼女は発熱していました。エイズが彼女の体を容赦なく触んでいるように見えました。

それでも彼女には「子どもに土地を残す」という夢があります。そのために毎日、職業訓練を受けに施設に通っています。訪問中も高熱に苦し みながら私たちに自分の夢を語ってくれました。

# ハヴェル地域小学校建設予定地視察ツアー

カンボジア・バッタンバン州バヴェル地域 に㈱穂高住販様のご寄付で小学校を建設す ることになりました。建設予定地を視察す るため2月10日から1週間、川向社長をカ ンボジアへご案内しました。学校建設予定 地は、バッタンバン州バヴェル地域クドゥ ル郡サムロンチェイ村。この村では、ほと んどが最貧困層の家族で、バヴェルの街の 中心や学校へのアクセスが困難な状況に直 面しています。大きな子は自転車や歩いて、 7km 先の小学校へ通いますが、小さな子ど もは通うことはできません。特に雨季にな ると洪水のために道が壊れてしまいます。 小学校は、40m×9m の大きさの 5 教室の学 校がサムロン・チェイ村に建設される予定 であり、周辺の3つの村と合わせて約300



雨季の始まる5月までの完成を目指して建設することになりそうです。チリク氏によれば、学校建設の土地として提供するのは、もちろん自分の孫にも学校に通って欲しいし、この村の子どもたちが学校に通えるようになって欲しいからだと話してくれました。

# カンボジア・スタディーツアー

バッタンバン市から車で4時間。当会の 支援していたバナン地域から移動した道の すぐ脇は地雷原。ドクロの看板の向こうに は人々の普通の生活がありました。家、庭、 畑があります。カンボジアの人々の日常と その中をクーラーが効いた 4WD に揺られ て、悪路を進む自分達の非日常の交差。そ れでもまだ隔てられていた壁が大きかった ことをこの後行く地雷撤去現場で知ること になります。訪問したのは、当会と提携す る地雷撤去団体 MAG の活動する地雷原、パ イリン特別市南ボーフイ村。1979~96年ま でクメール・ルージュの砦として政府軍、 ベトナム軍との激しい戦闘が行われ、それ ぞれが大量の地雷を埋めた地域です。内戦 中村人はタイへ避難しましたが、93年以降 様々な地域から人々が移住し、現在は 46 世帯、227 人が住んでいます。この村では 32人が地雷の事故に遭いました。村人の要 請で、2003年から地雷撤去をスタート。す でに地雷70個を撤去しました。この日も朝 地雷が1個見つかり、爆破作業を見せてく れました。参加者はよく見えるところから 爆破作業を見学。目の前 200m先の地雷が 爆発。大きな音とともに土煙が高く上がる のがはっきりと見えました。たった 1 個の 小さな地雷の威力をまざまざと見せ付けら れた瞬間です。爆発の衝撃の余韻が残るま まバッタンバンに戻り、MAG の事務所で 1904 ドルの寄付をしました。

また、前日に訪問したエマージェンシー病院では、パイリンで畑仕事中に地雷の被害にあった男性に会いました。そこは8年間も畑を毎年耕してきた場所だったといいます。カンボジアでは雨季になると雨で土砂が流れ、地雷も一緒に動いてしまう問題があります。地雷撤去を早く進めなければいけない理由がよく分かりました。



地雷の爆発の瞬間

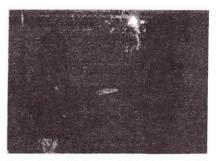


参加者の中司君が寄付 を手渡す

### 義肢装具士育成プロジェクト

#### ~奨学生との再会~

3月11日、プノンペンにある義肢装具士養成学校を訪問。当会 奨学生ヒム・カンニャさんと再会しました。彼女はこの日テスト を受けていましたが、テストの合間の休憩時間を訪問したツアー 参加者のためにとってくれました。彼女は現在2年生。来月の単 位認定テストに合格すれば、3年生になります。自己紹介をしてく れた後、参加者からの質問に答えてくれましたが、とてもシャイ で蚊の鳴くような声でしか話せなかった入学当初とは違い、とて もしっかりとした受け答えをしてくれるのに大きな成長を感じ、



とても嬉しく思いました。夢は義肢装具士になって、カンボジアはもちろん世界中の障害者のサポートをすることです。最後に半年分の学費 4000 ドルを渡しました。彼女の夢を実現するために、ぜひ残りの勉強も頑張って欲しいと思います。

# バナン地域2つの村で開発支援プロジェクト

2007年9月で支援を終了したバナン地域の2つの村では、マイクロクレジット(小規模融資)の 回収時期が迫っています。ドーン村では、すでに1家族を除いてすべての融資と月2%の利子の返済 が終わりました。例年に比べて天候が安定し、作物が良く育ったこともあり、大きな収益を上げた 人もいました。通常高利貸しからお金を借りれば月10%程度の利子で、農作物の収穫の有無に関わ らず、毎月返済しなければなりません。しかし、借りてから10ヶ月~12ヶ月の間に返済するとい う方法は、収穫が終わり、現金を手にしてから返済すればいいので住民には好評でした。

また、住民組織が設立した貯蓄制度で貯めたお金は、健康保険として、健康を害した人に提供しました。プラン・ブン・トゥンさんの家族は、畑で農作業しているときに、相次いで5人の子どもがマラリアを発症し、病院に運ばれました。治療費や薬代は別のNGOのサポートによりかかりませんでしたが、治療中の食費や交通費として、この保険が役立ちました。



一方、チャンホー・スヴァイ村ではまだマイクロ・クレジットの回収をしていません。しかし農作物の収穫も終え、返済用の資金はすでに準備しているようです。スタディツアー中に参加者の1人から『マイクロ・クレジットで得た収益で何を買いましたか?』という質問がありました。ほとんどは食べ物などに使ったようですが、2、ヘクタールの畑を持つ村長さんは、とうもろこしの収穫で、バイクを買うことができたそうです。

またこの村では、重病患者がいました。1 人はルン・タッチさんでお腹がどんどん膨れる病気になり、村人の誰もがあきらめていました。そこで当会で病院を紹介し、プノンペンの病院で治療を受けることができました。病院へ運ぶときは、スタッフも車の中で亡くなるのではないかとヒヤヒヤしたようです。3月13日のツアーで訪問した際には

元気に歩けるようになり、大きくなっていたお腹もなくなり、とてもやせていました。このまま薬 を飲み続ければ完治すると医師に言われているそうです。

### 義肢装具士育成プロジェクト

#### ~奨学生との再会~

3月11日、プノンペンにある義肢装具士養成学校を訪問。当会 奨学生ヒム・カンニャさんと再会しました。彼女はこの日テスト を受けていましたが、テストの合間の休憩時間を訪問したツアー 参加者のためにとってくれました。彼女は現在2年生。来月の単 位認定テストに合格すれば、3年生になります。自己紹介をしてく れた後、参加者からの質問に答えてくれましたが、とてもシャイ で蚊の鳴くような声でしか話せなかった入学当初とは違い、とて もしっかりとした受け答えをしてくれるのに大きな成長を感じ、



とても嬉しく思いました。夢は義肢装具士になって、カンボジアはもちろん世界中の障害者のサポートをすることです。最後に半年分の学費 4000 ドルを渡しました。彼女の夢を実現するために、ぜひ残りの勉強も頑張って欲しいと思います。

# バナン地域2つの村で開発支援プロジェクト

2007年9月で支援を終了したバナン地域の2つの村では、マイクロクレジット(小規模融資)の 回収時期が迫っています。ドーン村では、すでに1家族を除いてすべての融資と月2%の利子の返済 が終わりました。例年に比べて天候が安定し、作物が良く育ったこともあり、大きな収益を上げた 人もいました。通常高利貸しからお金を借りれば月10%程度の利子で、農作物の収穫の有無に関わ らず、毎月返済しなければなりません。しかし、借りてから10ヶ月~12ヶ月の間に返済するとい う方法は、収穫が終わり、現金を手にしてから返済すればいいので住民には好評でした。

また、住民組織が設立した貯蓄制度で貯めたお金は、健康保険として、健康を害した人に提供しました。プラン・ブン・トゥンさんの家族は、畑で農作業しているときに、相次いで5人の子どもがマラリアを発症し、病院に運ばれました。治療費や薬代は別のNGOのサポートによりかかりませんでしたが、治療中の食費や交通費として、この保険が役立ちました。



一方、チャンホー・スヴァイ村ではまだマイクロ・クレジットの回収をしていません。しかし農作物の収穫も終え、返済用の資金はすでに準備しているようです。スタディツアー中に参加者の1人から『マイクロ・クレジットで得た収益で何を買いましたか?』という質問がありました。ほとんどは食べ物などに使ったようですが、2、ヘクタールの畑を持つ村長さんは、とうもろこしの収穫で、バイクを買うことができたそうです。

またこの村では、重病患者がいました。1 人はルン・タッチさんでお腹がどんどん膨れる病気になり、村人の誰もがあきらめていました。そこで当会で病院を紹介し、プノンペンの病院で治療を受けることができました。病院へ運ぶときは、スタッフも車の中で亡くなるのではないかとヒヤヒヤしたようです。3月13日のツアーで訪問した際には

元気に歩けるようになり、大きくなっていたお腹もなくなり、とてもやせていました。このまま薬 を飲み続ければ完治すると医師に言われているそうです。



#### ■クラスター爆弾の全面規制に向けて

多くの不発弾を生み出すことから「第二の地雷」と呼ばれているクラスター爆弾。オスロプロセスと呼ばれる ノルウェー主導の国際交渉により全面規制に向けた「ク ラスター爆弾禁止条約」が5月に制定されました。

12 月の調印式に向けて、できるだけ多くの国に調印・批准してもらうことが重要です。

地雷問題に取り組んでいるテラ・ルネッサンスも、第 二の地雷であるクラスター爆弾に積極的に取り組むため に、ラオス人民民主共和国でのクラスター爆弾による不 発弾処理を、MAG(英国の地雷除去団体)と提携して行う ことになりました。

#### ■不発弾処理を終え、中学校建設を。

不発弾処理を行うのは、ラオス北東部のシエンクワン県カンパニオン村。ベトナム戦争中の不発弾が大量に残り、その処理などが障害となって社会資本の整備が遅れ、教育施設は近隣を含め同村の小学校しかありません。そのような背景から、MAGとラオス赤十字の協力で、同村に中学校を建設することになりました。そのために資金を現在、皆様に呼びかけておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。支援のお問い合わせは、電話075-645-1802まで。

#### ▼京都新聞でも紹介されました くうオスの未来 教育で開け>

ベトナム戦争中の不発弾が大量に残るラオス北東部の村で、京都市伏見区のNPO法人(特定非営利活動法人)「テラ・ルネッサンス」が来年度、中学校の新設を計画している。不発弾の大部分はクラスター(集束)爆弾で、子どもがけがをするケースもある。同法人は「教育こそ子どもの未来を開く」と、校舎建設の募金を呼び掛けている。

クラスター爆弾は、1個の親爆弾から数百の子爆弾が飛び散るほか、不発弾が地雷化する。60年代、米軍はラオスに伸びた北ベトナム軍の補給路を中心に空爆し、900万個の子爆弾が残存すると推測されている。

中学校舎の建設地は、シエンクワン県カンパニオン村。不発弾処理などが障害となって社会資本の整備が遅れ、教育施設は近隣を含め同村の小学校しかない。小中学生約450人が2部に分かれて学習するが、教室は満杯状態にあるという。

テラ・ルネッサンスは隣国カンボジアで地雷の被害者支援に取り組んでおり、校舎建設をきっかけにラオスでの支援活動を本格化させる。

新校舎は、ラオス赤十字社の協力の下、小学校近くの畑を使い、高さ約5メートル、床面積約200平方メートルの鉄骨れんが造りの平屋を造る。今秋の着工に先立って、春先から英国の地雷撤去団体が不発弾の処理作業を進める。総事業費は約700万円。

担当の江角泰さん(26)は「子どもが子爆弾を玩具と勘違いして負傷したり、大人が鉄回収の危険を冒す。教育の充実こそ子どもの未来を開く」と話す。【京都新聞 2008年1月23日付】

「お金も無い、外国語も話せないけれど、 事実を伝えることだったら、僕にもできる」と決意して7年! 子ども来や地雷問題のNPOで"戦っ" 28歳の記録

#### 『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』

ウガンダの元子ども兵の社会復帰支援やカンボジアの地雷除去支援、 女性義肢装具士の育成の支援などを行う特定非営利活動法人「テラ・ル ネッサンス」の理事長鬼丸昌也 (おにまる まさや、28歳)が、自身の 記録著書として「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した」を こう書房より2008年5月10日に発売しました。

「"自分にできること"を始めたい、と思っている人たちの参考になれば」との想いから出版した本書では、「テラ・ルネッサンス」の設立から現在までの7年間の活動やウガンダやカンボジア等の現地でのエピソード

こうして僕は 世界を変える ために一歩を

踏み出した

鬼丸 墨也 5558,752時85





を紹介するとともに、子ども兵や地雷の問題を知り"自分にできること"を実際に始めた人の取り組みを紹介しています。

お求めはテラ・ルネッサンス事務局まで 電話:075-645-1802

#### 一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか(会員募集)

テラ·ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。テラ·ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願い致します。

【会員特典】・会報誌「結晶母」等の贈呈・テラ·ルネッサンス主催のイベントへの優待 など 【会員種別】

正会員	●正会員	30,000 円/年
贊助会員	●個人会員	3,000円/年
	●ジュニア会員(18歳まで)	1,000円/年
	●団体会員	50,000 円/年
ファンクラブ会員	●理念に賛同し、月単位で継続支援される方	1,000円/月

郵便振替 00950-7-133760

加入者名 テラ・ルネッサンス基金

#### 【編集後記】(事務局: 鬼丸昌也)

今年度から国内業務強化の一貫として、結晶 母を改定することになりました。

まずは読みやすいようにレイアウト変更を 行いました。読みやすくなったでしょうか。

次回は 11 月下旬を予定しておりますので、 よろしくお願いいたします。

#### 【編集・発行】■

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス 612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105 tel/fax:075-645-1802 e-mail:contact@terra-r.jp

URL http://www.terra-r.ip



本誌はリサイクルや地球環境に配慮 した大豆油インクを使用しています